

仙林寺だより

NO. 49
編集・発行
松田正貴

行事報告

仙林寺観音祭礼

九日、恒例の如意輪観音様の祭礼です。夏のお祭りは、別名「餅観音」あんころ餅とひきな餅のお振る舞いです。腹もちの良さもさることながら、もち前の粘りで夏の暑さを乗り切りたいものです。何だか下手なダジャレのようですが、観音様に免じてお許し下さい。持ちつ持たれつ・・・。

八幡台・村岡観音祭礼

十五日、お盆の真つ只中、当山別当八幡台村岡揚柳観音様の祭礼です。昨年はやぐらを組んでの大掛かりな祭礼でしたが、今年はお世話役の方々のみの落ち着いたお祭りです。一年ごとに静と動が繰り返し訪れる祭礼、どちらにも甲乙付け難い良さ、それぞれに異なった趣があるようです。直会の席では、茹でたての香り枝豆が振舞われ、栽培方法の話題で盛り上がりました。「駒止めの松」で知られる景勝の地でもあり、棚経の疲れを忘れさせてくれる口ケーションや雰囲気という付加価値も頂きました。

孟蘭盆施食会(うらぼんせじきえ)

お寺のメインイベントお盆です。今年も大勢のご先祖様がぎゅりの馬で里帰ります。十三日には、施食会を開催し、ご先祖様だ

けでなく、三界万霊(さんかいばんれい)すべての精霊に施しの供養を致しました。仏の世界での救済事業、ボーダレスなボランティアに携る事ができる貴重な機会です。広範囲に供養の心を施す尊さに目覚める良縁を結ぶことが何よりの功德と言えるでしょう。

第二十回寺子屋子供会

今回の寺子屋は、十八番(おはこ)の坐禅に始まり、紙芝居でお彼岸のお勉強、締めは恒例流しそうめんです。

まずは長い休みボケの身体と心に渴!坐禅堂にて本格的な坐禅体験です。新入会員吉田空ちゃん(四歳)もしっかり坐れました。

緊張の後はお楽しみ、まずはこれがなくては始まりません。立派な孟宗竹は川俣町高橋勝衛様よりの布施、水は仙林寺の名水、麺は福島の稲庭うどんの別名を持つ藪内製麺のそうめんと、まさに地産地消?福島銘柄三つ巴。ボランティアの方々もこれまた福島産(失礼)会員の親御さん、そして協力員宮内氏には全般にわたりお世話になりました。十月は芋煮会、またまた子供達の笑顔が楽しみです。



「プラーシーボ効果」

観音様の正式名称は、観世音菩薩、世の音(声)を観る菩薩と読めます。普通、音や声は、観るものではなく、聞くものでしょう。ですが、私達が日頃お世話になっている方の中にも聴きながら診る技術を駆使するご職業があります。感の良い方はもうお判りかと思えますが、そうですお医者さまです。聴診器で体からの音を聴きながら、容態を診る。同じように、観音様が観るといふ救いは、私達の苦しみ悲しみの原因が何処にあるのか、自分勝手やわがままの心から来るものではないのか、しっかりと見聞きして判断するところからきているのではないのでしょうか。観音様の中にも、薬王(揚柳)観音様という仏の世界のお医者さまがおられます。揚柳の名が示すとおり、手に持つ柳の枝で悪病を払うと言います。ここで言う悪病とは、心の病「煩惱」を指すものでしょう。勿論心の病を払う事で、身体の病も治癒の方向へ向かう効果も考えられます。さて、お医者様の使う言葉に「プラーシーボ効果」があります。いわゆる偽薬の事ですが、先生を信じ、絶対治ると信じる事で小麦粉と食塩水で作っただけの物が薬として効果を示すことがあるそうです。この絶対信じる事を仏教では信仰と言います。信仰の心を持つ事で、私達は副作用の無い万能薬を手にする事ができます。逆を言えば信仰に目覚める事の無い人生を送れば、安心お薬を頂く機会を失うという事です。菩薩様のお姿を仰ぎ見て、いつかはあの様にとのあこがれを持つ心が、信仰の入り口かもしれませぬ。